

SYLLABUS(後期)

授業科目	インテリアデザイン		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士及びインテリアコーディネーターとして注文住宅の仕様全般業務やリフォーム全般業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	インテリアコーディネーター試験の基礎知識「インテリア商品と販売」「インテリア計画と技術」を学び資格取得の資とする。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	構造と施工（1）		建築構造					
2	構造と施工（2）		下地工法と仕上げ					
3	材料（1）		木材 金属材料					
4	材料（2）		コンクリート・窯業系材料 機能材料 陶磁器製品					
5	材料（3）		ガラス 石材 左官材料					
6	材料（4）		カーペット 壁紙 塗料、その他仕上材					
7	建具		建具 建具金物					
8	環境工学		温熱環境 音環境 光環境					
9	住宅設備（1）		冷暖房設備・空調設備 給水設備・給湯設備・排水設備 電気設備					
10	住宅設備（2）		キッチン サニタリー その他の住宅設備機器					
11	照明		照明の基礎 照明器具 照明計画					
12	表現技法		建築製図 インテリアの図面					
13	建築関連法規		建築基準法 その他の建築関連法規					
14	消費者関連法規		法規 品質表示					
15	後期まとめ							
1回配当時間		2時間	1コマ					
使用教科書		インテリアコーディネーター試験過去問題徹底研究 上巻		合格テキスト 新試験対応版、インテリアコーディネーター1次		下巻		

SYLLABUS(後期)

授業科目	ビジネスマナー I	年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			
実務経験内容							
教育目標	社会人、企業人としての心得・礼儀作法、マナーについて学ぶ。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	職業観と社会人になる心構え	職業観 将来何をやりたいか、何になりたいか					
2	業種と職種	業種・職種を調べる、資格と職種 自分の適性と職業選択					
3	適職試験	適職試験により診断					
4	就職活動①	就職活動のあらまし 志望先を選ぶ時の注意、志望先を決める					
5	就職活動②	会社説明会・会社訪問の仕方 エントリーシート					
6	入社試験①	入社試験のあらまし					
7	入社試験②	履歴書・身上書の書き方 応募書類の書き方					
8	入社試験③	履歴書作成					
9	入社試験④	面接試験のあらまし 面接試験の傾向と対策					
10	入社試験⑤	面接試験での敬語の使い方・話し方・心の持ちかた					
11	入社試験⑥	作文試験のあらまし 作文の基礎知識					
12	作文試験	作文試験により就職作文対策					
13	入社試験⑧	SPI対策 一般常識					
14	入社試験⑨	漢字の読み書き問題 社会・英略語・英語・数学					
15	入社試験⑩	入社試験前日の心得 内定したとき、不合格のとき					
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト、就職活動 実践！ワークブック 改訂版						

SYLLABUS(後期)

授業科目	一般構造		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	各建築物の基礎工事から仕上げまでを理解させ建築物の設計能力を養う。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	鉄筋コンクリート構造（Ⅰ）		構造型式及びその材料となる鉄筋とセメント等、コンクリートの種類及びコンクリートの二次製品					
2	鉄筋コンクリート構造（Ⅱ）		基礎（地盤、基礎の型式、基礎の配筋）					
3	鉄筋コンクリート構造（Ⅲ）		鉄筋コンクリートラーメン構造における構造計画及び梁、柱、床スラブ、壁階段等における配筋のポイント					
4	鉄筋コンクリート構造（Ⅳ）		鉄筋コンクリート構造における防水の方法と種類 地下室についての特殊な防水方法					
5	鉄筋コンクリート構造（Ⅴ）		鉄筋コンクリート構造における仕上げ計画と仕上げ材料 （外部、内部、階段周り、開口部）					
6	鉄筋コンクリート構造（Ⅵ）		壁式鉄筋コンクリートとプレキャスト鉄筋コンクリートについて主であるラーメン構造との相違点					
7	鉄骨構造（Ⅰ）		構造形式として主であるトラス構造とラーメン構造のそれぞれの長所と欠点、鋼材の形状と寸法及び鋼材の性質、強度					
8	鉄骨構造（Ⅱ）		鋼材の接合方法と接合部設計の原則及び高力ボルト接合、溶接接合等の配置					
9	鉄骨構造（Ⅲ）		基礎形状の種類とそれぞれの基礎の長所と欠点					
10	鉄骨構造（Ⅳ）		骨組の構造計画と骨組の構成、部材、梁、柱、筋かい、壁、小屋組、柱脚、床組、階段					
11	鉄骨構造（Ⅴ）		仕上げ材（外部、内部、開口部、耐火被覆）と軽鋼構造及び鋼管構造についての概要					
12	その他の構造		鉄骨鉄筋コンクリート構造とプレストレストコンクリート構造のそれぞれの概要及び構造用材					
13	建築物の防火と保守		火災及びその他の災害についての対策方法及び主要構造部と仕上げ部の保守点検					
14	まとめ		鉄筋コンクリート、鉄骨構造のまとめ					
15	試験							
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	改訂版 初めての建築一般構造							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築CAD実習 I		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として個人邸を中心とした設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	CAD製図法を学び、各種建築図面を反復練習して作図能力を高める。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	前期の復習		Jw CADの設定、図面設定、作図の注意事項、印刷 コンピュータの基礎知識（各部名称と動作、周辺機器について）					
2	木造図面 矩計図（I）	木造2階建住宅の矩計図を描く 矩計図の重要性、寸法押さえ、基礎・土台の記入						
3	木造図面 矩計図（II）	木造2階建住宅の矩計図を描く 胴差し、軒げた、小屋梁、床・屋根の構造と描き方						
4	木造図面 矩計図（III）	木造2階建住宅の矩計図を描く 各部仕上げの記入						
5	木造図面 矩計図（IV）	木造2階建住宅の矩計図を描く 仕様の記入、寸法記入、印刷						
6	階段図面の練習		階段寸法の押さえと正確な作図の練習					
7	建具詳細図（I）		サッシ周りの詳細図を1/50レベルで描く					
8	建具詳細図（II）		室内建具の詳細図を1/50レベルで描く					
9	曲面壁、曲線を多用した平面・立面		曲線や斜め線を含むデザインがある平面図・立面図の作成練習					
10	RCオフィスビル 1, 2階平面図（I）		RC2階建オフィスビルの平面図 柱心・壁心の押さえ、アール形状バルコニー					
11	RCオフィスビル 1, 2階平面図（II）		RC2階建オフィスビルの平面図 建具、設備の記入、繰り返し部品の活用					
12	RCオフィスビル 立面図（I）		RC2階建オフィスビルの南立面図 高さの押さえ、平面図との整合性					
13	RCオフィスビル 立面図（II）		RC2階建オフィスビルの東立面図 目地やセバ穴の記入					
14	RCオフィスビル 断面図		RC2階建オフィスビルの断面図 断面図で表すもの					
15	1年のまとめ		やり残した課題を整理し、CADに対する技術的な不安を除去					
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	建築CAD検定試験公式ガイドブック、建築CAD検定試験問題集、ドリルで学ぶJW-cad第4版、実践ドリルで学ぶOffice活用術							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築基礎		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築に必要な数学を理解させ、構造設計の計算能力を高める。また、CADの基本的事項について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優(A:100点~80点)、良(B:79点~70点)、可(69点~60点)、不可(D:60点未満)とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	情報処理の基礎 (I)		コンピュータの原理 (パソコンの仕組みとハードウェア)					
2	情報処理の基礎 (II)		Windowsの操作 (OSとソフトウェア、各種メディアの特徴)					
3	情報処理の基礎 (III)		LANとインターネット (ネットワークの概要とセキュリティ)					
4	CADの基礎		CADシステムの運用と課題 (作業環境、システムの標準化、システムの運用、著作権)					
5	単位と組み立て単位		単位記号と単位の組み合わせ (単位の換算)					
6	行列		行列を作る (行列の原理と公式)					
7	行列式		行列式を計算する (連立方程式を解く)					
8	行列のまとめ		行列と行列式の演習問題					
9	簡単な微分		変化率 (微少区間の変化) 公式 (公式の応用)					
10	簡単な積分		微少区間の積み重ね (面積と積分) 公式 (公式の応用)					
11	力学と微分		運動の法則 (変化を式で表す、簡単な微分方程式)					
12	微分積分まとめ		微分積分の練習問題					
13	力学と数学 (I)		不静定構造物の解法、たわみ角法					
14	力学と数学 (II)		不静定構造物の解法、たわみ角法					
15	力学と数学 (III)		その他の応用					
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、図説やさしい建築数学							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築計画		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築物の用途に応じた設計条件や法令との関係などを理解し、適切で合理的な設計のあり方について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	事務所建築・庁舎（Ⅰ）		事務所建築の歴史・種類					
2	事務所建築・庁舎（Ⅱ）		事務所建築の全体計画					
3	事務所建築・庁舎（Ⅲ）		事務所建築の部分計画					
4	事務所建築・庁舎（Ⅳ）		庁舎、インテリジェントビル					
5	劇場・コンサートホール コミュニティセンター（Ⅰ）		劇場の歴史・コンサートホールの概要					
6	劇場・コンサートホール コミュニティセンター（Ⅱ）		劇場・コンサートホールの全体の計画、舞台の計画					
7	劇場・コンサートホール コミュニティセンター（Ⅲ）		劇場・コンサートホールの客席部の計画、舞台裏の計画 コミュニティセンターの計画					
8	商店・百貨店・ショッピング センター（Ⅰ）		商店の歴史と発展・商品の種類と買物行動・商業施設の種類の					
9	商店・百貨店・ショッピング センター（Ⅱ）		売場計画・防災安全計画・商業機能の複合化などの商店・百貨店・ショッピングセンターの計画					
10	図書館（Ⅰ）		図書館の歴史・種類・出納システム・貸出システム・入退館の安全管理システム・配架方式・収納方式などの図書館計画					
11	図書館（Ⅱ）		カウンター周りの設計・貸出閲覧部門の設計・収納部門の設計・業務部分の設計などの図書館各部の設計					
12	博物館・美術館（Ⅰ）		博物館・美術館の歴史・種類					
13	博物館・美術館（Ⅱ）		博物館・美術館の導入空間の計画・展示空間の計画・収蔵空間の計画					
14	総合演習問題		総合能力の達成度の確認および補足のための演習問題					
15	試験							
1回配当時間	2時間		1コマ					
使用教科書	やさしい建築計画							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築材料実験		年次	1年	前後期	通年	単位	3
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築材料の物理的特性を実地検証し、適材を適所に使用方法を習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	木材の試験方法		建築用木材の種類と特徴、平均年齢幅測定					
2	木材の含水率 比重測定		試験用木片加工、計測、レポート記入					
3	木材の圧縮試験（Ⅰ）		縦圧縮試験、材種による破壊状態の観察					
4	木材の圧縮試験（Ⅱ）		横圧縮試験、部分圧縮試験、繊維方向による破壊状態の観察					
5	木材の曲げ試験		試験方法、材種、繊維方向、断面形状による破壊状態の観察					
6	鋼材の曲げ試験		各種軽量鋼材、断面係数、曲げ強度測定					
7	コンクリートの曲げ試験		無筋コンクリート、コンクリートブロックの曲げ強度測定					
8	鉄筋コンクリート梁の曲げ試験		前期に製作した鉄筋コンクリート梁の曲げ強度測定 破壊状態の観察					
9	鋼材の引張試験（Ⅰ）		鉄筋の引張試験の目的、試験方法、標点、引張試験					
10	鋼材の引張試験（Ⅱ）		D19～D25D鉄筋の引張強度試験 応力ひずみ曲線について					
11	木材の接合耐力試験（Ⅰ）		木造建築に使用される釘、ボルト、ビス等接合材料の耐力測定、試験方法、試験材の加工					
12	木材の接合耐力試験（Ⅱ）		前回製作した試験材の破壊、破壊状態の観察、耐力測定、記録					
13	各種鋼材の座屈実験		実験の目的、軽量鉄骨、H型鋼材の座屈状態の観察					
14	各種仕上げ材料の試験方法 材料の特性試験と機器分析		左官材料、塗装材料、防水材等の試験方法 各種試験方法、吸水性、耐火性、防火性、耐久性等の試験法					
15	まとめ 試験		後期実験レポート整理、用語等の復習					
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、新版 建築実習1							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築史		年次	1年	前後期	後期	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	日本と西洋の建築の変遷と相違点を認識し、各時代の遺構から建築様式、構造、構法を学び現代建築への発達過程を理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	日本建築史・中世（Ⅰ）	城郭建築、書院造、茶室						
2	日本建築史・中世（Ⅱ）	数寄屋風書院、近世の寺院、近世の神社						
3	日本建築史・近世（Ⅰ）	近世の民家						
4	日本建築史・近世（Ⅱ）	学校・大店・劇場・遊郭						
5	近代建築史・西洋（Ⅰ）	産業革命以後の建築、アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー ウィーン・ゼツェッション						
6	近代建築史・西洋（Ⅱ）	ロシア構成主義、アール・デコ、フランク・ロイド・ライト						
7	近代建築史・西洋（Ⅲ）	ドイツ工作連盟、ル・コルビュジェ						
8	近代建築史・西洋（Ⅳ）	ミース・ファン・デル・ローエ、マッキントッシュ						
9	近代建築史・日本（Ⅰ）	洋風建築の出現、西洋建築技術の輸入、伝統技術の西洋化と疑洋風建築						
10	近代建築史・日本（Ⅱ）	西洋建築の理解と習熟、耐震理論と新構法の展開						
11	近代建築史・日本（Ⅲ）	日本の表現主義						
12	近代建築史・日本（Ⅳ）	、震災の前後と帝冠様式、伊藤忠太						
13	近代建築史・戦後（Ⅰ）	近代の定着と技術の進歩、近代を超える動き、空中カプセル						
14	近代建築史・戦後（Ⅱ）	戦後日本の住宅物語、建築の組み直し、建築と場所の再生						
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教書	カラー版 図説建築の歴史西洋・日本・近代							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築施工 I		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	設計図に基づき、建築物を完成させる各過程を理解し、各種手続き、各種の工事について理解させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	鉄筋工事（Ⅰ）		材料及び加工、組立の留意事項					
2	鉄筋工事（Ⅱ）		かぶり厚の規定及び定着の方法					
3	鉄筋工事（Ⅲ）		継手の方法（重ね継手とガス圧接等）					
4	型枠工事（Ⅰ）		材料（せき板、支保工、緊結工事等）					
5	型枠工事（Ⅱ）		組立の留意事項、在置期間等					
6	コンクリート工事（Ⅰ）		材料（セメント、骨材、練混ぜ水、混和剤）					
7	コンクリート工事（Ⅱ）		コンクリートの種類と調合					
8	コンクリート工事（Ⅲ）		レディーミクストコンクリートと運搬、打込み					
9	コンクリート工事（Ⅳ）		コンクリートの打継ぎ、締固め、養生等					
10	鉄骨工事（Ⅰ）		材料及び工作、加工					
11	鉄骨工事（Ⅱ）		接合（溶接と高力ボルト接合、ボルト接合）					
12	鉄骨工事（Ⅲ）		工事現場作業（アンカーボルト埋込み、柱底部の仕上げ等）					
13	木工事（Ⅰ）		材料及び各特徴					
14	木工事（Ⅱ）		接合部（釘、接合金物、継手と仕口）					
15	木工事（Ⅲ）		枠組壁工法の留意事項					
1 回配当時間	2 時間	1 コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、施工がわかるイラスト建築生産入門							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築設計製図 I		年次	1 年	前後期	通年	単位	8
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計管理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	製図の技法を習得し、各種建築物の製図法を反復練習し、図面表現力と図面の読解力を養成する。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	木造2階建住宅 各部詳細図		木造2階建の各部詳細図の表現方法・描き方 各部詳細図の作成					
2	木造2階建住宅 天井伏図		木造2階建の天井伏図の表現方法・描き方 天井伏図の作成					
3	木造2階建住宅 展開図		木造2階建の展開図の表現方法・描き方 展開図の作成					
4	設備図（Ⅰ）		電気・給排水衛生設備図の表現方法・描き方 設備図の作成					
5	設備図（Ⅱ）		電気・給排水衛生設備図の表現方法・描き方 設備図の作成					
6	セカンドハウス （木造2階建）（Ⅰ）		課題文の読み取り方及びエスキスの手順について解説 エスキス実施 エスキスチェック					
7	セカンドハウス （木造2階建）（Ⅱ）		配置図兼1階平面図作図 2階平面図及び立面図作図					
8	セカンドハウス （木造2階建）（Ⅲ）		断面図作図 基礎伏図・床伏図作図					
9	セカンドハウス （木造2階建）（Ⅳ）		梁伏図兼小屋伏図作図 矩計図作図、面積表					
10	高齢化に配慮した専用住宅 （木造2階建）（Ⅰ）		課題文の読み取り方及びエスキスの手順について解説 エスキス実施 エスキスチェック					
11	高齢化に配慮した専用住宅 （木造2階建）（Ⅱ）		配置図兼1階平面図作図 2階平面図及び立面図作図					
12	高齢化に配慮した専用住宅 （木造2階建）（Ⅲ）		断面図作図 基礎伏図・床伏図作図					
13	高齢化に配慮した専用住宅 （木造2階建）（Ⅳ）		梁伏図兼小屋伏図作図 矩計図作図、面積表					
14	高齢化に配慮した専用住宅 （木造2階建）（Ⅴ）		建具表の作成 展開図の作成					
15	高齢化に配慮した専用住宅 （木造2階建）（Ⅵ）		展開図の作成 プレゼンテーション					
1回配当時間	8 時間		4 コマ					
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、新しい建築の製図							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築測量実習		年次	1年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士、建築施工管理技士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築現場で必要な測量機器の操作、測量法等について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優(A:100点~80点)、良(B:79点~70点)、可(69点~60点)、不可(D:60点未満)とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	トランシットの取扱要領	トランシットの構造、バーニア式・マイクロメーター式、デジタル式について、望遠鏡、ピントの合わせ方、三脚の据付法等						
2	トランシット測量 (I)	トランシットバーニアの読み方、0セットの仕方、単側法、正位、反位、右回りについて						
3	トランシット測量 (II)	倍角法、方位角法、機器操作と野帳記入、方位角の測定について						
4	トランシット測量 (III)	鉛直角の測定について 鉛直角の測定と応用測量						
5	水盛・遣法の実習	木造建築を作るための建築測量である水盛・遣法の実習						
6	レベル・トランシットの検査方法	レベル・トランシットの検査法、クイ打ち検査法						
7	トランシットによる直角測設 (I)	トラバース法 建築現場に必要な直角をトランシット設置作業実習						
8	トランシットによる直角測設 (II)	他の方法を使用して一辺20mの正方形を設定						
9	光波測距儀	光波測距儀の原理と使用実習						
10	測量結果のまとめ方	各種公式、4回で実測した数値から具体的に距離・高さを計算						
11	水盛・遣法	建築工事における測量作業						
12	トランシット測量実技試験	トランシット基本操作試験						
13	新しい測量	GPS測量						
14	地図	地図の種類と用途、建築関連地図、案内図の書き方						
15	測量の誤差・精度	測量の各器具、測量方法と誤差						
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、新版 建築実習1							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築透視図		年次	1年	前後期	後期	単位	2
授業の種類	実習	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築図面から図学的技法により、建築物の完成予想図を描く方法について習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目		授 業 内 容					
1	フリーハンスケッチ		フリーハンスケッチの作成					
2	平行透視図法（1消点） （Ⅰ）		練習問題（課題7）					
3	平行透視図法（1消点） （Ⅱ）		練習問題（課題8）					
4	平行透視図法（1消点） （Ⅲ）		簡単な建築物の平行透視図					
5	平行透視図法（1消点） （Ⅳ）		簡単な建築物の平行透視図					
6	有角透視図法（2消点） （Ⅰ）		練習問題（課題11）					
7	有角透視図法（2消点） （Ⅱ）		練習問題（課題13）					
8	有角透視図法（2消点） （Ⅲ）		簡単な建築物の有角透視図					
9	有角透視図法（2消点） （Ⅳ）		簡単な建築物の有角透視図					
10	実習（外観パース） （Ⅰ）		外観パース実習（RC3階事務所ビル）					
11	実習（外観パース） （Ⅱ）		外観パース実習（RC3階事務所ビル）					
12	実習（外観パース） （Ⅲ）		外観パース実習（RC3階事務所ビル）					
13	実習（外観パース） （Ⅳ）		外観パース実習（RC3階事務所ビル）					
14	実習（外観パース） （Ⅴ）		外観パース実習（RC3階事務所ビル）					
15	実習（外観パース） （Ⅵ）		外観パース実習（RC3階事務所ビル）					
1回配当時間	4時間	2コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、パーステック							

SYLLABUS(後期)

授業科目	建築法規 I		年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修		実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計監理業務に関する実務経験を有す。							
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解し、各規定について具体的に習得させる。							
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優（A：100点～80点）、良（B：79点～70点）、可（69点～60点）、不可（D：60点未満）とする。							
回数	題 目	授 業 内 容						
1	組石造	組石造について建築基準法上における設計、施工上の制限						
2	補強CB造	補強CB造について建築基準法上における設計、施工上の制限						
3	鉄骨造	鉄骨造について建築基準法上における設計、施工上の制限						
4	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造について建築基準法上における設計、施工上の制限						
5	許容応力度計算	許容応力度計算、荷重、外力の概要						
6	荷重と外力	固定荷重、積載荷重、積雪荷重、風圧力、地震力の計算の概要						
7	防火	防火の目的と基準法上の構成、造形的可能性（床面積と高さの限度）と構造形式を決定する三つの要素、都市計画法・用途・構造強度						
8	耐火建築物	防火性能と耐火性能の定義、防火構造、耐火建築物、準耐火建築物						
9	防火区画	防火区画の種類、外壁の種類と防火設備の構造、界壁の構造						
10	内装制限	内装制限を受ける建築物の用途、規模の把握						
11	避難（Ⅰ）	避難規定の適用の範囲、避難経路						
12	避難（Ⅱ）	避難階段の構造、屋外への出口、屋上広場、敷地内通路						
13	建築設備（Ⅰ）	給排水設備について建築基準法上における設計、施工上の制限						
14	建築設備（Ⅱ）	空気調和設備、エレベーター、エスカレーター、避雷設備						
15	試験							
1回配当時間	2時間	1コマ						
使用教科書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版、図説やさしい建築法規、建築関係法令集 法令編							

SYLLABUS(後期)

授業科目	構造力学 I	年次	1 年	前後期	通年	単位	4
授業の種類	講義	科目区分	必修	実務経験のある教員による授業科目			○
実務経験内容	建築士として建築設計事務所を運営し建築業務全般に関する実務経験を有す。						
教育目標	建築基準法及び関連規則について、法の基本理念を理解するとともに各規定について具体的に習得させる。						
成績評価の方法・基準	成績は100点満点とし、60点以上をもって合格点とする。科目期末試験、平常試験の成績及び出席状況を厳正に審査して、成績を評価し、その評価に基づき単位を付与する。 科目成績評価は絶対評価の4段階であり、優 (A : 100点~80点)、良 (B : 79点~70点)、可 (69点~60点)、不可 (D : 60点未満) とする。						
回数	題 目	授 業 内 容					
1	静定トラス	トラスの考え方及びトラス部材の応力とその計算の方法 演習問題					
2	静定トラス (節点法)	節点法の考え方及びその計算の方法 演習問題					
3	静定トラス (図解法)	図解法の考え方及びその計算の方法 演習問題					
4	静定トラス (切断法)	切断法の考え方及びその計算の方法 演習問題					
5	断面の性質 (I)	断面一次モーメントの定義及び図心までの距離の求め方、断面二次モーメントの定義及び図心軸についての断面二次モーメントの求め方 演習問題					
6	断面の性質 (II)	図心軸以外の軸について及び2以上の集合図形の断面二次モーメントの求め方 演習問題					
7	断面の性質 (III)	断面係数の定義及びX軸に関する断面係数の大小関係 演習問題					
8	断面の性質 (IV)	断面二次半径の定義及びその求め方 演習問題					
9	応力度 (I)	応力度の種類 (垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度) 及びそれぞれの計算方法 演習問題					
10	応力度 (II)	応力度の種類 (垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度) 及びそれぞれの計算方法 演習問題					
11	応力度 (III)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合の応力度の計算方法 演習問題					
12	応力度 (IV)	許容応力度の定義及びその種類、許容曲げモーメントを求めるための計算方法 演習問題					
13	座屈 (I)	座屈の定義及び座屈軸と座屈方向 演習問題					
14	座屈 (II)	座屈長さ と 弾性座屈荷重 演習問題					
15	試験						
1回配当時間	2時間	1コマ					
使用教科書	図説やさしい構造力学 改訂版、基礎から学ぶ建築構造設計 基本式の理解と活用、ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版						